


 書評

林直樹, 西村隆夫 編

医療現場におけるパーソナリティ障害

患者と医療スタッフのよりよい関係をめざして

有賀 徹

パーソナリティー障害を知る最良の書

この度、『医療現場におけるパーソナリティ障害 患者と医療スタッフのよりよい関係をめざして』が上梓された。救急医療に携わったことのある読者であれば、よく理解されていることと思うが、救急医療において精神医学的な支援を要する局面は多々あって、身体的な治療が一段落するや、しばしば精神科医にコンサルテーションをあおぐ。そのような中で、“パーソナリティ障害”を指摘される事例もまた少なからず経験される。そこでは、“パーソナリティ障害は病気なのか、病気でないのか”について質疑をしたり、一般的な精神病に比して“パーソナリティ障害は10倍も苦労が多い”などと聞いたりするものの、結局のところ、精神医学に疎い我々一般医にとって“パーソナリティ障害”を理解することはやさしいものでは到底なかった。これが我々一般医の本音である。

本書の副題には「患者と医療スタッフのよりよい関係」が謳われているが、まずは我々が一定水準まで“パーソナリティ障害”を知ること

がこのための大前提であろう。本書はその意味で我々一般医にそれを叶えてくれる、言わば“傑出した”良書である。もちろん、本書は実際の精神科診療に関するカンファランスを契機にまとめられたもので、精神科医にとってもこの分野で十分に役立つ内容が含まれている。それらは、著者らが大変よく噛み砕いて、親切に説明していることで一見してよくわかる。精神医学の奥の深さや社会とのつながり等々、きわめて含蓄の豊かなことに驚く。

以上に加えて、本書においては、精神科医師、看護師、医療相談員、ケースワーカー等々、医療の最前線で苦闘する職員が困った問題に立ち至った際に、組織的な病院医療をいかに実践して彼らを守っていくかという医療安全の側面についても周到的言及がなされている。このようにして、本書が幅広い読者に高い満足度を与えることは間違いない。

(昭和大学病院救命救急センター)

●A5 228頁 2006 定価2,940円(本体2,800円+税) 医学書院

MEDICAL BOOK INFORMATION

医学書院

今日の小児治療指針 第14版

編集 大関武彦・古川 漸・横田俊一郎

●B5 頁872 2006年
定価16,800円(本体16,000円+税5%)
[ISBN4-260-00090-X]

本書は小児科医だけでなく、小児を診る機会のある医師全体に向けて作られた。今版では新しく開業医による「クリニック・マネジメント」の章が加わった。各章では、フォローアップやフォローアップのポイントなどにも触れている。